

パモジヤ



2005年12月年末特大号

~未来のきりん探しの旅に出よう!~

今月のINDEX

- 1) 年末特集:2005年の3大ニュース
- 2) 耳より! JICA 研修情報
- 3) 事務所からのお知らせ

1) 年末特集:2005年の3大ニュース

早いもので2005年も終わりに近づき、タンザニアはますます暑くなってきました。今月号ではプロジェクトの専門家、隊員の皆様に、この1年間を振り返ってそれぞれの3大ニュースを書いていただきました。

モロゴロ州保健行政強化プロジェクト:杉下チーフアドバイザー

第1位:プロジェクト終了時評価ミッションがやって来たよ~

早いもので、プロジェクトが2001年4月に始まって4年と半年。10月2日~10月23日に終了時評価ミッション(団長:北林人間開発部G長)が、モロゴロのプロジェクト実施地区を調査訪問されました。短期間にもかかわらず、モロゴロ州内6県の保健マネージメント・チームを踏査し、会議につぐ会議で、我らがカウンターパート(CP)のプロジェクトに賭ける心意気を感じてくれたご様子。

ミッションからは「プロジェクトの延長」という提言が出され、今後もプロジェクトが一丸となってト成果の裨益・広報・自立発展に向けた活動に取り組んでいくことになりそうです。みなさん、これからもよろしく!!

第2位 ワーキング・グループが活動開始。現在、フル操業中。

プロジェクト成果の効果的達成のための作業部会(ワーキング・グループ)が、2004年末から相次いで誕生し、現在では「保健情報システム(HMIS)」、「コミュニケーション・システム」、「プロジェクト・ホーム・ページ」、「ニュースレター」、「保健リソースセンター」、「オペレーショナル・リサーチ」、「モニタリング・評価」の7つの作業部会がフル稼業中です。

担当専門家と州および各県のCP担当で構成されるワーキング・グループの熱気は、泣く子も黙るすさまじさ…。定期会議・トレーニング・個別作業を通して、毎日のように熱い議論が闘わされています。でも、みんな楽しそう…。

第3位 マネージメント能力向上を通して急成長・急浮上するチーム・人材

プロジェクトでマネージメントを支援してきた結果(!?),ここにきて急成長するチーム、急浮上してくる人材が続出してきました。涼しい顔をしながら独自の県予算でリソースセンターを開設してしまったキロサ県保健チーム、連日のインテンシブなトレーニングで講義中に床に放心状態となってしまうウランガ県のCP、知らない間にコンピューターの達人となってしまうボメロ県のCP、本物のリサーチャーになってタイまでセミナーに飛んでいったこれまたボメロ県のCP、廃品利用で素晴らしい書架を作ってしまったキロンベロ県のCPなどなど。

近い将来、この個性豊かな地方保健マネージャーたちが、コミュニティー・リーダーに、診療施設のスタッフに、地方自治政府に、そしてタンザニア中央政府に、地方保健マネージメントの極意を展開し、タンザニアの人々の健康と国家の発展に寄与する予感が…、ひしひしと伝わってくる2005年でした。みなさんも、彼らに会いに来ませぬ



か？タンザニアの地方発展の息吹を肌で実感できると思いますよ！

番外編

忘れていけないのは、プロジェクトの地方保健マネージャーたちを影で支える各地の人気者たち。ウランガ島の「ママ・マヘンゲ」、キロンベロ島の「小僧さん」、キロサ島の「ママ・ニエウベ」、州立病院の「竹中直人」氏、プロジェクト事務所の「横山弁護士」、そして我らが事務所のカウンターパート・アドバイザー兼聖人「フビ先生」と凄腕秘書「シュワルツネッカー」氏などなど。みんなプロジェクトに潤いを与えてくれる愛すべき人たちです。いつでもモロゴロに寄ってくださいね。みんなで待っていますよ！！

キリマンジャロ農業技術者訓練センター計画フェーズ : 浅井調整員

第1位: 参議院 ODA 評価調査団来訪！

11月24日に参議院議員6名の調査団の訪問を受けました。朝9:00のキリマンジャロ空港出迎えから、昼食後の13:00出発までの半日(KATC滞在時間は正味2時間半)でしたが、良い印象を持っていただいたようで、無事に終わった瞬間は一同ホットしました。

第2位: (訃報) C/P 逝去

普及・農民研修セクションのMs.A. Mushumbaさんが、7月21日、入院先の病院にて亡くなりました。98年にKATCに配属になり、KATC フェーズ1そしてフェーズ2プロジェクトの一員として共に働いてきました。真面目で、それでいていつも笑顔を絶やさず朗らかな彼女。お化粧を欠かさず、ピンクの頬紅が印象的でした。

関係者一同、心より彼女の冥福を祈っています。

第3位: 広域協力事業セミナー実施！

2/23～24とモシのウフルホステルとモデルサイトのひとつMomboスキームで開催して本セミナーは、プロジェクトの広域技術協力事業実施国のウガンダ、ケニア、ザンビア、マラウイの各国から対象農家と普及員、タンザニアからはMAFS PS、さらにJICA本部北原理事の出席を得て大盛況のうちに終了しました。

包括的マラリア対策プロジェクト: 金森専門家

第1位: マラリア顕微鏡診断研修が無事終了(9月)

2週間のマラリア顕微鏡診断研修が無事終了。全国から37名の臨床検査技師が参加し、日本発のマラリア検査法(アクリジン・オレンジ法)を習得されました。

第2位: マラリア看護研修の準備が始まる(10月)

看護師を対象としたマラリア看護研修の準備が始まりました。短期専門家2名(伊藤専門家、山本専門家)と現地スタッフが連日深夜に及ぶ準備作業を進めています(11月現在)。

第3位: マラリアになったマラリア対策アドバイザー(11月)

マラリア対策アドバイザー(金森専門家)がマラリアに罹患。ムワンザの保健センターで顕微鏡診断の指導中に、自らの血液を検査してマラリア原虫を発見。即座に治療して事なきを得ました。

アフリカ人造り拠点プロジェクト(AICAD): 清水専門家

第1位: プログラムオフィサー雇用

AICADは東アフリカ三カ国の拠出金でスタッフ雇用・組織運営費が賄われている地域機関。予算不足からスタッフの一部はJICAが雇用している。今回プロジェクト期間に限りプログラムオフィサーを雇用した。今後AICAD側が雇用することが見込まれるがうまくいくか?! 組織の事業・財務における自立持続性がチャレンジなのだ。

第2位: 我が家の鶏全滅・ヤギ一頭死亡

鶏インフルエンザが全世界で猛威を振るう中、うちの鶏たち(5羽)が全滅した。町の獣医(免許があるか不明)曰くこの時期よくある病気らしい。政府からの補償が望めないタンザニアの養鶏業者には疫病は貧困への近道切符。



第3位: 走れマカタチリソース



8月に実施した農産物加工に従事しているSMEを対象とした起業家育成研修生のマカタさん(チリソース製造)を訪れた。研修後につけ始めた帳簿を見ると販売・原料の仕入れのために走り回る自転車を毎日2千シルでレンタル。月6万シル。しかし、自転車一台を新しく買うと7万5千シル。この初期投資が出来ないのがSME従事者の現状なのだ。

(特製マカタチリソースの製造過程を語るマカタ氏、モロゴロ州キロサ県自宅にて)

JOCV代表: 会田隊員(15-2次隊、村落開発普及員、ムビンガ)

第1位 ミニョウ(寄生虫)

私は声を大にして言いたい。「私はミニョウを飼っていません！私はサフィです！！」これまで3回の健康診断がありましたが、ミニョウが出たのは初めの1度だけ。それなのにみんな、「今回も出たんでしょ？」なんて聞くのは止めてください！3度目の健康診断では松藤HAにまで、「会田さん、虫出なかったの初めてじゃない？」なんて言われちゃいました。私は学びました。第一印象が如何に重要かを…。

寄生虫を飼っていると太らない、なんてウソです。速やかに出しましょう。

第2位 シアフ(軍隊アリ)

同期隊員が遊びに来たその日の夜、襲撃に遭う。ベッドにまで進入。踏みつけようとする服の中まで逆襲に来る。工場からの電気が夜11時に切れる我が家、2人して夢にまで見るほど、安眠とは程遠い恐怖の夜であった…。

特に乾季の暑いときに発生する。ものすごい隊列をなして通り過ぎていく。頭がクワガタのような形をしたアリで、服の中に侵入して噛み付く。結構痛いし、集団攻撃だし、服の中に入られた日には恐怖そのもの。

第3位 フンザ(砂ノミ)

今年1年で6匹が足の爪の間に侵入。靴がきつくて痛いのかと思ったらフンザでした。最近は見分けられるようになりました。見つけたら速やかに近くのムタンザニアに発掘作業をお願いしましょう。安全ピンひとつで見事に採掘してくれます。

ブタの多い村落部に生息。サンダルで歩くと足の爪の間に侵入。放っておくとそこで産卵・繁殖。足はえらい事になります。時間が経つほど大きくなるので早めに取り出しましょう。潰さずに取り出すのが重要。

JOCV代表: 植田隊員(16-1次隊、理数科教師、ブグ)

第1位: NGOWIさん急逝

赴任直後の安全対策オリエンテーションに始まり、その後色々大変お世話になった方だったので、急逝の一報を聞いた時は、かなりのショックを受けました。

第2位: サッカー部、赴任後初勝利

タンザニアに赴任して在日日本人サッカー部に入部させていただきました。試合をやってもなかなか勝てなかったのですが、今年KOICAとの試合で初勝利を得ることができました。

第3位: クラス担任に着任

タンザニアでの学校生活にも慣れ始め、少し落ち着いてきた所でクラス担任になり、今までとは違った面から学校(職場)を見られるようになりました。

JICAタンザニア事務所

第1位: タンザニア総選挙

当初10月30日に予定されていた5年ぶりの総選挙。緊急連絡網のテストや、水・食料の備蓄、投票所の確認



等、準備ばっちりかと思いきや、野党副大統領候補の逝去に伴い、突如 12 月 14 日に延期に。事務所の緊張状態は、投票が終わり新体制が確立するまで続くことになりそうです。

第2位:テレビ会議システム導入(2005年2月)

ついに当事務所にもテレビ会議システムが導入されました。機材の納期が遅れ、導入が周辺の JICA 事務所より遅れること数ヶ月。今では大活躍しています。ただ、多くのタンザニアの人々には理解の枠を超えているらしく、テレビ会議を見たときはかなり驚いています。

第3位:人事異動の嵐!!

今年は事務所内スタッフが大きく入れ替わりました。年明けから行くと村上調整員着任、申間調整員離任(1月)、本田企画調査員着任、加藤所員着任、奥山企画調査員離任(4月)、老川所員の着任、小林所員の離任(7月)、高橋次長着任、甲賀所員着任、有光所員着任、安居企画調査員着任、木野本次長離任、山内企画調査員離任(9月)、松下所員離任、坪池所員着任(10月)と書き出して見ると、ものすごい状況だったことが分かります。来年も新体制の事務所をどうぞ宜しくお願いします。

番外:事務所スタッフユニフォームリニューアル(2005年4月)



ドライバー、アスカリ(警備員)、掃除婦さんのユニフォームを作りなおしました。色はさわやかなブルー。なかなか好評です。是非事務所でチェックしてください。ただ、一部のスタッフからは肩につける JICA のロゴマークの刺繍入りのエンブレム(UN 機関や入国管理局の人々がつけているようなもの。ちなみに左の写真は UNDP のドライバーさんに

撮影してもらいました。このようなものです。)をほしいと言われており、頭を悩ませています(JICA ロゴの刺繍は難しいのでは? 誰か優秀なフンディを知らないか?)。



新制服を着たドライバーのアレックスさん

番外編:ダルエスサラーム大停電(2005年11月)

配電盤の故障によりダルエスサラームが数週間にわたって停電になりました(こんなことは隊員の皆さん、専門家の皆さんにとっては当たり前のことなのかもしれませんが)。ジェネレーター完備を売り物にしている当事務所のビルのジェネレーターも、連日の稼働で疲れ果てたのか、ついに動かなくなり、ある日は電気なし状態で仕事をするに。ジェネレーター復活後も燃料費節約のために、20:00以降はジェネレーターを稼働させないという日が1週間ほど続きました。いかにわれわれの仕事が電気に頼っているのかを実感しました。

JICA タンザニア事務所員代表:川村所員

第1位:統計局データ提供能力強化プロジェクト臨時業務調整員になる(ただし1ヶ月間だけ)

諸般の事情により、高津専門家の離任から谷口専門家の派遣まで1ヶ月空いてしまい(無人プロジェクトに!)、その間、臨時調整員をしました。定期的なオフィスの見回り、機材の確認、カウンターパートへの挨拶、アルバイトさんへのお給料の支払いと、一部しか業務を経験していませんが調整員の大変さを実感しました。

第2位:蚊帳約 20,000 帳購入(母と子供の健康プロジェクト)

アルーシャの蚊帳工場まで蚊帳を購入、検収へ。巨大な工場の隅を借りてタンザニア保健省の人達とともに、丸1日かかって蚊帳を数え、サンプルを抜き取り、穴があいていないか、ほつれていないか、大きさは合っているかを検査しました。さすがに夕方には首が痛くなりました。この蚊帳は後日、キゴマ州とカゲラ州で配布されました。

さて、「パモジャは堅い」とよく言われますので、仕事を離れ、くだけた感じで私個人の3大ニュースです。広報担当というポストを悪用し、思いのまま書かせてもらいます。



第1位:ザンジバルでイルカと泳ぐ(2005年1月)

あまりの可愛さに声も失うほど(正式には、イルカが泳いでいる横で海に浮いていただけ)。

第2位:マフィアでマンタと遭遇(2005年3月)

イースター休暇でマフィアで潜っていると、突然暗くなり、上を見上げるとマンタが優雅に通り過ぎていきました。

第3位:ムトワラで鯨との遭遇失敗(2005年7月)

イルカ、マンタと続いたので、調子にのり、休暇を取って鯨を見にムトワラへ。ダウー船に揺られること3時間。あいに鯨は姿を見せませんでした。楽しかったです。アレンジしてくれた南部隊員の方々ありがとう。

2) 耳より! JICA 研修情報

現時点でタンザニア政府に候補者の募集をかけている、日本で行われる研修コースをリストアップしますので、カウンターパートに研修の機会を与える場になれば幸いです。なお、紙面の関係上、研修コース名と研修期間、応募締め切り日のみを記載しますので、詳細な情報が必要な方は事務所の加藤もしくはムソフェまでご連絡ください。以下のコース以外でも研修に関して質問がある場合には、いつでもどうぞ。なお、研修に応募するためには、履歴書、健康診断書およびカントリーレポートの作成、その後人事院のスタンプをもらう等多くの作業と時間が要求されます。ですからなるべく余裕を持って連絡をいただくと助かります。

なお、留意点は以下のとおりです。

- ・ どのコースも基本的にはタンザニア政府の人が対象です(民間会社で働く人は対象になりません。一部のコースは NGO の参加も OK なものもあります)
- ・ どのコースにも応募にあたっての資格要件があります。この要件を満たさないと応募することはできません(特に年齢制限には要注意)。
- ・ どのコースも1名(もしくは2名)の枠に対し、4~5名程度の応募がありますので、応募をしたからといって、受かる保証はありませんので、ご注意ください。

現在募集中のコース(コース名、研修期間、応募締め切り日の順)

- ・ Seminar for Promotion of Education for Girls and Women 2/12-3/12, 12/19
- ・ Coastal Fishery Development and Management for Sustainable Resource Use
3/7-6/26, 12/19

帰国研修員情報

加藤所員



(Mr. MUSIKA:写真中央、メガネをかけた研修員)

とした役割分担のもと組織的に働く日本人の姿が強く印象に残ったようで、帰国後はそれぞれの職場におけるスタッフの意識改革をテーマに、研修を実施していく必要性を感じたようです。また、本研修の講師をしていただいたひとりには、5年程前にタンザニアで実施された「母子保健プロジェクト・フォローアップ事業」において

チーフアドバイザーを務めていた方がいたということで、当時の経験を踏まえた有益なアドバイスを得ることができたということです。すべてのJICA事業に共通することですが、その場の技術協力だけにとどまらず、それが起点となり、その後、様々な形で協力が持続されることは素晴らしいことですよね。

3) 事務所からのお知らせ

次長の「目(jicho)」

高橋次長

今月の一言「三現主義」

今月の一言は、「三現主義」です。(四字熟語が思いつきませんでした)

援助協調の暴風が吹き荒れるタンザニアにおいて、日常生活では、いったい何がおきているのでしょうか。現場主義というJICAのスローガンをよりどころに、9月にタンザニアへ着任したわけですが、この1ヶ月間、事業の現場をほとんど見ないままに、時間が過ぎていきました。

私は、JICAへ就職する前に、某民間企業の工場でエンジニア(候補生?)として勤務しておりました。最初に勤務した工場の上司から、口酸っぱく「三現主義」を説教されたことを思い出しました。

そこで、今月のテーマは「三現主義」です。三現主義とは、現場、現物、現象の総称です。

現場に立ち、現物を観察し、現象を理解し、エンジニアとしての問題解決能力を高めることだったと記憶しています。操業中のプラントへ足を運び、制御機器で確認するだけでなく、ポンプの音を聞き、輸送機に手を当てて振動を確認したり、製品の状況を目で見て、においを嗅ぎ、5感を使って仕事をすべし、と先輩からのアドバイスをもらっていました。

10月も終わろうとしている時期にこの言葉を思い出し、「そうだ、そうだ、現場に行かなければ」と思い立ち、仕事の整理がつかない中で、地方出張に出かけました。

まず、11月初旬に水資源確保が困難とされつつも、協力隊を集中的に配置しようと計画している南東部地域へM調整員と共に出張しました。ムトワラ空港でSシニア隊員と合流しました。国内線なので入国審査などないと思っていたのですが、この時期の南東部はカシューナッツ収穫の時期であり、隣国モザンビークからの入国者も多く、パスポートの提示を求められました。一瞬、冷や汗をかきましたが、幸いなことにコピーを持っており、Sシニアの流暢なスワヒリ語のサポートのおかげで、無事、入国(?)できました。Sシニアはタンザニア隊員OGであり、業務への厳しい姿勢を兼ね備えた素敵な女性です。久しぶりの再会で、なるべく明るく振りまこうと、「こんにちは〜」と挨拶を交わし、Sシニア「次長、お疲れ様ですっ!」「次長、まずは生活環境の厳しいキタンガリに配属されている隊員任地へ向かいますっ!!」、とキビキビした挨拶を受け、リンディ、ムトワラの分岐点の交差点で昼食休憩の後、キタンガリの中等学校へ向かいました。マサシ方面への幹線道路から分かれ、南へ続く地方道に入ってから、悪路の連続で、上下、左右、前後と揺れに耐え、久々のスキーのイメージトレーニングと思っているのも30分程度で、後半はひたすら揺れに耐えていました。そうこうして、キタンガリへ到着すると、N隊員が我々の到着を待っていてくれました。任地周辺では、電話、無線機共に不調であり、衛星携帯を整備していますが、こちらも不調です。簡単なキオスクまでも時間がかかり、近隣の町であるネワラまでダラダラもなく、ピックアップの支柱につかまり、揺られて1時間とのことでした。そのネワラには3名の隊員が配属されており、今度は安全な水の確保が大きな課題です。活動の前提となる生活環境について、不足を言い始めたらきりがありませんが、同地域では、同時に水資源開発の無償資金協力事業が進行中であり、これらの実施現場の情報を隊員にも提供しました。

その後、マサシ、ムトワラと行程を進め、協力隊活動現場を訪問した後、途中、水資源開発の掘削現場にも立ち寄り、水資源開発とここに集まる人々に対する協力隊活動とが良好な補完関係になることを実現したいと考えました。このような話の後に、南東部に配置されている某隊員がダルエス出張時に水資源開発についての情報提供を担当所員に求めていました。非常にうれしかったことです。

現場にいる人が関心を示していることに、事務所要員が積極的に関わり、現場で発生している現象(サイト)を現物(事業)を通じて少しでも多く勉強し、それぞれの活動との連携を強めることにより効果を高める事例



を広めていきたいものです。

安全対策同様に、現場の人々の目(JICHO)がどこに向いているのか、大事なことです。

「貧困は、会議室で起きているのではなく、村落で起きているのです！」



村落で実施中の掘削作業



水源を求めて、人々は集まります。

水質は悪く、安全な水の確保が課題です。

今月の危機管理

老川所員

<選挙ふたび・・・>

「10月30日に無事選挙が終わっているはず」という想定で、11月号には選挙以外のトピックを取り上げましたが、ところがどっこい、ご承知のとおり連合共和国の総選挙が12月14日に延期となったため、今月号では再び「選挙直前」ということで関連の情報をお伝えしたいと思います。実質「2度目の選挙準備」となり、気の緩みが生じかねませんが、改めて各自が安全対策に万全を期していただきますようお願いします。

1. 選挙日程変更の経緯

野党 CHADEMA の副大統領候補者が10月26日に病死したことに伴い、タンザニア国家選挙委員会(NEC)は、タンザニア連合共和国(以下"UNION")の大統領選挙、国会議員選挙、地方議会選挙を12月18日に延期すると発表。その後、日にちを前倒しし、12月14日(水)に再度変更することを改めて発表(12月14日は休日となること決定)。

2. ザンジバルでの選挙結果及びその後の状況

・連合共和国とは別に独自の大統領及び議会を持つザンジバルにおいては、10月30日に予定通り選挙が実施され、大統領選及びザンジバル議会選ともに与党 CCM が勝利を収めた(大統領選では CCM のカルメ大統領が 53.2% の得票率を獲得し、46.1% の得票率だった CUF のハマド候補を上回った)。最大野党 CUF は選挙に不正があったとして本選挙結果の受け入れを拒否し、カルメ大統領の就任を認めないスタンスをとっている。

・ザンジバルでは、選挙中及び選挙後において、警察当局と CUF サポーターとの衝突が続き、警察当局が大量の催涙弾や放水を使用して CUF サポーターを封じ込めるという事態も発生。

・一方、ダルエスサラームでは、10月31日に一部 CUF サポーターによる暴動を警察当局が催涙ガスや放水によって鎮圧するという事件が生じ、その後、11月5日にも CUF サポーターがジャーナリストを襲撃するという事態も生じている。

・その後11月末までの間は、ザンジバル選挙の結果に伴う大きな混乱は、ザンジバル及び本土において生じていない。

3. 今回の選挙に関する安全対策措置

今回の連合共和国選挙の延期にともない、大統領選のみ改めて選挙キャンペーンが11月19日～12月



13 日まで行われます。キャンペーンが終盤に差し掛かるにつれて、テンションが高まることが想定されており、特に最終日の 12 月 13 日については、各党が大規模なラップアップ集会を開催する予定となっておりますので、十分にご注意ください (CCM: DSM (モロゴロ道路沿いの Jangwani グランド)、CHADEMA: MOSHI、NCCR-Mageuzi: DSM(Ubungo)、TLP: DSM(Temeke の Mbagala 地区)、SAU: MOSHI、Demokrasia Makini: DSM (Temeke の Kigamboni 地区)。

これらの状況を踏まえて、JICA 関係者に対して次のとおり安全対策措置をとることとしますので、関係者の方々のご協力をよろしくお願いいたします。

(1) 総選挙の前後 1 週間 (12 月 7 日 ~ 12 月 21 日) については、原則国内移動 (任地を離れること) は禁止とします。業務上等やむを得ない事情があって国内移動を希望する場合は、前広に事務所までご相談ください。

(2) ザンジバルについては、1 月 14 日まで業務目的外渡航 (プライベートの渡航) は禁止とします。

(3) 選挙当日については、次の点にご留意ください。

- ・不要不急の外出は避け、政治的な集会やデモには決して近寄らない。
- ・事前に通勤経路や自宅付近の投票所の場所を確認し、投票日には近づかないようにする。
- ・車を持っている方は、投票日前には燃料を満タンにしておく。
- ・電話、携帯電話、無線等、緊急時連絡体制を確認する。(電源確保及び作動確認)
- ・事務所には担当スタッフが常駐し、携帯電話による連絡に加えて、無線及びランドラインによる連絡が取れる体制となっているため、何か緊急事態が生じた場合はすぐに事務所に連絡をする。

< 11 月の犯罪被害報告 >

日時	都市	被害状況	教訓
11/12 午後 2 時	ダレサラム	混雑しているダラダラ車中で、かばんのチャックを開けられ携帯電話が盗まれていた。	ダラダラ内では貴重品はかばんの奥のほうに収納すること。

協力隊関連

村上ボランティア調整員

17 年度 2 次隊の 11 名が、11 月 29 日にタンザニアに着任しました。皆様の暖かいご指導、よろしくお願いいたします。現地語学訓練の後、1 月上旬に各々の任地へ赴任する予定となっております。残念ながら、赴任が遅れている隊員が 1 名おりますが、その紹介はまた着任後に行いたいと思います。(氏名 ABC 順、敬称略)

氏名	職種	配属先	任地
赤坂京子	村落開発普及員	モロゴロ県庁農業家畜課	モロゴロ
畠山実	溶接	ニヤカト職業訓練センター	ムワンザ
蔵野国司	数学教師	ムウイカ中等学校	モシ
松浦綾子	理数科教師	ムコング中等学校	リンディ
三田高德	自動車整備	キホンダ職業訓練センター	モロゴロ
難波一宏	経済	シニャンガ商業学校	シニャンガ
新妻秀文	理数科教師	ルクレディ中等学校	ルクレディ
小野田聖	保健師	キノドーニ区役所	ダルエスサラーム
照沼健史	理数科教師	ナチングウェア中等学校	ナチングウェア
内山貴洋	自動車整備	マサシ FDC	マサシ
横山慎二	数学教師	セントジョセフ商業学校	タンガ



2006年 JICA 事務所休日について

2006年の事務所休日(土日以外)が以下の通り決定いたしましたのでお知らせします。ただし、イスラム関連の休日(*印のついたもの)は月の満ち欠けによって大幅に変更される可能性がありますのでご注意ください。

No.	DAY	DATE	Holiday
1	Mon	Jan. 9	Idd-El-Hadji(*)
2	Thu	Jan. 12	Zanzibar Revolutionary Day
3	Fri	Apr. 7	Karume Day
4	Mon	Apr. 10	Maulid Day(*)
5	Fri	Apr. 14	Good Friday
6	Mon	Apr. 17	Easter Monday
7	Wed	Apr. 26	Union Celebrations
8	Mon	May. 1	Workers Day
9	Fri	Jul. 7	International Trade Fair
10	Tue	Aug. 8	Peasant Day
11	Sun-Mon	Oct.29-Oct.30	Idd-El-Fitri (*)
12	Mon	Dec. 25	Christmas day
13	Tue	Dec. 26	Boxing Day

Total 13days(土日以外の祝日をカウントしています。)

Working Hour: 08:30-16:30(Lunch Time 12:30-14:00)

統計局データ提供能力強化プロジェクト機材供与式

川村所員



統計局プロジェクトは2004年2月から3年間のプロジェクトとして開始され、「統計局が政策策定者、行政官、学者、開発パートナーおよび他の一般大衆に対して、適時に、より信頼性の高い統計データを提供できる」ことを目指しています。具体的な活動としては(1)統合統計データベースの構築、(2)統計図書室の整備、(3)データベース利用、統計分析のための研修実施の3本柱です。

特に統計図書室については、本プロジェクトが開始される前は、統計局の隅の物置のようなところに本が積み上げられており、来訪者がデータを求めてきても、どこに何の本がある

かわからず、何の成果もなくお帰りいただいていたという状況でした。そのような状況から出発したものの、統計局側のイニシアティブにより海沿いの一番角に部屋を確保、統計局予算で改修を行い、JICAが家具の供与、図書分類の方法および来訪者への対応に関する技術移転を行い、2004年6月に正式に図書館がオープンしました。今では1日に平均して16人の来訪者が来るまでになりました(この数字少なく思えるかもしれませんが、ここは統計図書館で、所蔵しているのが統計の専門書のためです)。今回はこの図書館を充実させるべく、JICA側から45冊の書籍と4つのCD-Romが、企画庁(統計局を管轄する省庁です)のブクク次官、統計局のムカイ局長に対して小幡所長より供与されました。

統計に興味がある方、是非統計図書館を訪れてみてください。ちなみに谷口専門家(指導科目:業務調整/IT)は図書館のちょうど向かいで仕事をしています。

始動! ネリカ・ネットワーク in タンザニア

甲賀所員

ネリカ(New Rice for Africa)とは、病気・乾燥に強いアフリカ稲と高収量のアジア稲を交雑することによって開発された、アフリカ陸稲の新しい有望品種です。日本政府は、2003年9月に開催された「第3回アフリカ開



発会議(TICAD)において、ネリカの普及促進をアフリカ支援の具体策として打ち出しており、これを受けて JICAもアフリカ各地で試験栽培・普及に対する支援を行っています。

一方、タンザニアでは、キロンベロ農業研究・研修所(KATRIN)およびキリマンジャロ農業技術者訓練センター(KATC)を除き、これまでネリカの本格的な試験栽培は行われてきませんでした。AICAD(The African Institute for Capacity Development)の支援の元、農業・食糧安全保障省(MAFS)、ザンジバル農業・自然資源・環境・協同組合省(MANREC)、各地の農業試験機関、KATC、ソコイネ大学、農作物検疫機関等が参加する「ネリカ・ネットワーク」を立ち上げることとなり、11月15日に立ち上げのためのキックオフ・ワークショップがMAFSにて開催されました。ワークショップでは、MAFSを中心とした技術委員会の設立、試験栽培の全体計画等について中身の濃い議論が交わされました。今後、技術委員会の発足がMAFSにおいて正式に承認され、早ければ、来たる小雨季にあわせて試験栽培が開始される予定です。



華々しいセレモニーなどは一切なく、小さな会議室で行われた、地味なキックオフではありましたが、いずれは「実り多い」協力が育ってほしいものです。

《ネリカ米について発表をする野坂AICAD専門家》

JICA 関係者カリブ・クワヘリ

Kwa heri

田島美智子専門家(保健協力計画、2002年12月2日～2005年12月1日)

保健省で3年間働き、この12月1日に日本に帰ることになりました。赴任中は Single Working Mother (配偶者はいるけれども、いないのと同じなので)を免罪符(?)に JICA、日本人コミュニティ、タンザニア人、特に家で働いてくれた人たちにおんぶに、抱っこ、娘共々、『ザ・パラサイト』生活を送りました。本当に、お世話になりました。ありがとうございました。

長期専門家は初めての経験。また年頃の娘を抱えての単身赴任?も初めて。アフリカは1984年、85年のエチオピア以来でした。わからない事尽くめで、しかも、保健全般を見ると言うポスト柄、保健分野の専門家で、公衆衛生の学位はあるものの、臨床の専門性はないため、大変苦労しました。カウンターパートは CMO (主席医務官)でしたが、実際の保健省のカウンターパートはそれぞれの部署の専門のスタッフです。HIV、性感染症、マラリア、リプロ、子供の保健、検査用キット、無線機、医療機材、保健情報システム、保健財政、保健人材、ロジなど等。それぞれ JICA の活動と関連する場面で付け焼刃的に勉強をしたと言う、衝撃の告白をさせていただきます。インターネットがなかったら、、、。

面接の時の『このポストは、広く、浅く、が求められていますが、大丈夫ですか?』の質問に『広く、深くで、頑張ります。』と言ったものの、『広くもなく、深くもなかった。』のではと反省しています。

やっと、少しは役に立てるようになったところで、帰るのは心残りも少しはありますが、これが限界かな?後任の石島さんとはタンザニアの人たちに迷惑を掛けないようにできるだけスムーズな引継ぎを行いたいと思います。これ、願望。夢?

皆様に置かれましては、心身共に気をつけられ、タンザニアでの生活が充実したものであることをお祈りしております。お世話になりました。



15-2次隊代表:志賀隊員(村落開発普及員、バガモヨ)

私達 15年度2次隊 20名は、タンザニアでの活動を終え12月初旬に帰国の途に着きます。着任当時は、2年間という活動期間の長さによって圧倒されていた私達ですが、今帰国を目前にすると、月日の流れの早さに驚かされ、出発日までのタンザニアでの一日一日を大切にしようと心がける毎日です。

20名という大所帯が「任短」をすることもなく(途中、危ないこともありましたが)無事2年間の活動を終えることができたのも、JICA タンザニア事務所の皆様、ならびに配属先、現地の方々のサポートあってのことです。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

Mungu akubariki katika kazi zako. Tutaonana.

15年度2次隊 一同

Karibu

石島久裕専門家(保健協力計画、2005年11月18日～2007年11月17日)

はじめまして。11月19日に保健協力計画専門家として着任いたしました石島 久裕(イシジマ ヒサヒロ)です。ここへ来る3週間前までアフガニスタンのカブールにて保健医療プログラムオフィサーとして1年強、活動しておりました。寒暖の激しい、乾燥した土地から、高温多湿のタンザニアへの赴任で若干身体がびっくりしています。

健康は人間の生活の基本であり、健康向上を目的とした保健医療システムを円滑に機能させるため、保健行政能力の強化を中心とした活動に取り組むたいと考えております。

前任地では自由に運動もできませんでしたので、余暇にはテニス、ゴルフ、サーフィンなど楽しみたいと思っております。クラブ活動も盛んなようですので、お誘い頂ければ幸いです。

タンザニアへは二度ほど調査で来たことはありますが、今回は長期に滞在しますので色々学ぶことが多く、皆様のお世話になることが多々あると思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

パモジャでは引き続き皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。特に特集ページでは援助分野に関係なく、タンザニアのさまざまな分野における一般的な概要をご紹介できればと思っています。皆様の役に立つ、楽しいニュースレターにしたいと思っておりますので、取り上げてほしい特集・リクエスト、投稿など、どしどし下記のメールアドレス宛、あるいは直接ご連絡ください。

なお、パモジャ(Pamoja)とはスワヒリ語で「一緒に(together)」という意味です。

Email address: Arimitsu.Sachiko@jica.go.jp



JICA タンザニア事務所
2005 年 12 月